

新基地建設反対名護共同センターニュース

障害者を真っ先に犠牲にし、新たな障害者を生む戦争は 絶対反対です。

障害者の日ゲート前でアピール発表

12月9日は「障害者の日」。例年この頃、「障がい者辺野古のつどい」を開いてきましたが今年はコロナ感染症予防のために中止に。今年は戦後75年の節目であり同実行委員会は9日、辺野古ゲート前テント村で80人の参加を得て「私たちは辺野古新基地建設の断念を求めます」とのアピールを発表しました。

障害者は辺野古新基地建設断念を求めます

アピール文では、かつてナチスドイツが実験で20万人にのぼる障害者を毒ガスで虐殺した事実を紹介、「戦争は人間の心を奪う」。日本政府が抑止力のための辺野古新基地というが「抑止はゆくし(うそ)だ」。先の大戦で沖縄県民が多くの犠牲を受けた教訓から、辺野古新基地建設は絶対やめさせなければならぬ。新基地建設反対運動は日本と世界の世論を動かしている。「障害者も健常者と連帯して新基地建設を断念させるまでたたかきましょう」と呼びかけました。

実行委員長で視覚障害者の渡嘉敷綾秀(すいしゅう)さんは、「戦争で真っ先に犠牲になるのは障害者だ。新たな障害者を生む戦争は最大の暴力行為。絶対反対です」と訴えました。



アピール文を発表する実行委員の大城松健氏(オストミー協会沖縄県支部長・前名護市議=写真上)。挨拶する渡嘉敷さん(円内写真)



多くの団体・個人からメッセージが寄せられました。障害者の日に当たり多くの団体と個人からメッセージが寄せられました。お名前を紹介しませう。テント村にアピールとメッセージ全文を掲示しています。

- 那覇市身体障害者福祉協会 会長・高嶺豊 ●全日本視覚障害者協議会(全視協) 元会長・藤野高明 ●障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会(障全協) 副会長・全日本視覚障害協議会副会長・田中彰治 ●名護市・新垣正樹 ●南風原町・上間祥之介 ●大阪市・安部正文 ●岩国市・森本健一 ●伊江島「沖縄土の宿」・世界障害芸術家協会会員・木村浩子 ●俳優・中村敦夫 (順不同・敬称略)

辺野古塾の知らせ

◇場所・ゲート前テント村 ◇主催・ヘリ基地反対協
第3回 12月24日(木) 10:30~11:30
講師 赤嶺政賢衆議院議員(沖縄1区/日本共産党)
「戦後生まれで~よくわからない」菅内閣の実像
第4回 1月14日(木) 10:30~11:30
講師 屋良朝博衆議院議員(沖縄3区/立憲民主党)
「沖縄の振興策と基地リンク論について」

「防衛局のボーリング調査を黙認するな！」 美謝川切り替え工事開始 名護市長に緊急抗議行動



名護市役所前での緊急抗議集会の様子(8日17:30 写真上) 辺野古ダムに敷かれた汚濁防止膜(9日、左写真)

辺野古ゲート前の国道329号線に面した辺野古ダム周辺で美謝川の河口を埋め立て地外に切り替えるためのボーリング調査が始まっています。辺野古新基地建設に反対していた稲嶺進前市長は美謝川の切り替えにも反対し、工事を止めてきました。しかし、18年2月に安倍官邸の全面支援を受け当選した渡具知武豊現市長は、新基地建設に対する姿勢を曖昧にしたまま、美謝川の切り替えに向けたボーリング調査を黙認しています。

住民の水源地の汚濁は許せない

ゲート前の県民と平和運動センターの山城博治氏は8日昼、名護市役所を訪ね辺野古ダムに設置した単管足場やボーリング調査は水質汚染につながる恐れがあると、防衛局に調査中止を求めるとともに抗議しました。市側は「専門家の意見では水質汚濁の恐れの可能性は低い。調査地は地権者が許可している」と問題視しない考えを示しました。

市民ネットと共産市議が挨拶

8日夕方には名護市役所前広場で抗議の緊急集会を開催、60人が参加しました。市民らは「安全な水を提供する立場の名護市が、水源地が汚染される恐れがある工事を『私は知りません』ということは許されない」と批判しました。仲村善幸市議(市民ネット)、吉居俊平市議(共産)など市議5人が連帯の挨拶をしました。